



写真：川西中学校区3小学校6年生の交流 水沢中学校区乗り入れ授業 説明は、7ページ

巻頭言『子どもたちの成長をそっと支えながら』

学校教育課学事係 桶谷 里実

今年度、学校教育課に異動してまいりました桶谷と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は昔から『ドラえもん』が大好きです。あの丸い顔を見るだけで心はほっこり、ひみつ道具には今でもワクワクしています。「タイムマシンがあれば…あのときの失敗、なかったことにできるのに」なんて思ったこと、皆さんにもあるのではないのでしょうか。

なかでも、私がいちばん好きなのは、のび太くんに寄り添うドラえもんの姿です。失敗しても怒らず、文句を言われても受け止め、ときには巻き込まれても、いつもそばにいてくれる。あの優しさと包容力には、今でも心がじんわり温かくなります。

私にも子育ての時期がありました。子どもたちはもう成人しましたが、小中学校のころは思うようにいかず、心配のあまり、ついあれこれ言いすぎてしまったことも。振り返ってみると、なんとかしてあげたい一心で、ひみつ道具を次々に出すドラえもんのようでした。でも、そんな私に、本当に大切なのはすぐに何かをしてあげることより、そばにいて静かに見守り、話に耳を傾けることなんだ…と。子どもたちが、それを気づかせてくれました。

だからこそ、これからもドラえもんのように、そっと寄り添って、必要なときには支えになれる存在、子どもたちがうまくいかない日でも、「まあ、そんな日もあるよね」と笑って言える、そんな大人でありたいと思っています。

家庭も学校も、子どもたちにとって、ドラえもんのように「安心できる」場所であってほしいです。私たち大人が力を合わせて、これからも子どもたちの背中をそっと押していけたら…そんなふうに願っています。

小中一貫教育

■ 一日異校種体験研修から

6月11日(水)に松代中学校区の異校種体験研修参観に伺いました。この日は、松代小学校の関口先生が松代中学校で研修を行いました。主に1年生の教室を中心として、授業参観や1年生と3年生の英語授業（中学校英語1種免許所持）を行いました。

異校種体験研修では、中学校の先生が教科の専門性を生かして小学生（特に5・6年生）に授業をする姿は見ますが、小学校の先生が中学校での授業をする場面は、初めて拝見しました。

英語の授業は教科書を用いて行うことが一般的です。十日町市ではデジタル教科書を用いての授業が当たり前のように行われています。ネイティブな発音を聴くことができ、各校で工夫を凝らした授業実践が行われています。今回は、事前の研修で関口先生が中学校の英語のデジタル教科書を使うことができるように配慮してほしいという依頼がありました。

教育センターの協力を得て、関口先生が事前研修で中学校のデジタル教科書を使えるようにしてもらいました。関口先生は、中学校の英語の担当教員から助言をいただき、小学校にしながら教材研究を深めることができました。

私は、1年生の英語授業を参観しました。あこがれの人について助動詞 can を使って語り合う内容です。

教科書には3人の人物が自分のあこがれの人物について発表する様子ができます。バスケットボール選手の鳥海連志さん、スケートボード選手の四十住さくらさん、将棋棋士の藤井聡太さんの写真が示され、デジタル教科書の発音から誰のことを話しているか考えます。

I like Sakura. She can skateboard very well. (四十住さくらさんについて)

I like Sota. He can play shogi very well. (藤井聡太さんについて)

このセンテンスに慣れたところで歌手のあいみょんさんについて語る英文を読みます。

My hero is Aimeyon. She is a popular singer in Japan. She can play the guitar well. I like her powerful voice. My favorite song is "Harunohi." It is a song about love. Please listen to the song.

デジタル教科書の発音に合わせて何回か読み、子どもたちが1文ずつ訳していきます。It is a song about love. の訳に当たった男子が「言いたくありません。」と顔を赤らめて言いました。これを誰も笑ったり責めたりしません。彼がシャイで、この英語の意味を分かっているとクラスメイトは認めています。私自身、この学級は初任者研修で2年間関わっていたので、彼のことも学級の雰囲気もよく分かっているつもりです。とても親和性の高い学級です。

授業が終わってから、関口先生に中学校の授業を経験してどう感じたか聞いてみました。関口先生は「子どもが楽しく学べる授業をしたいと思いました。でも、教材研究や実際の授業をしてみて、中学生として身に付けなければならない知識や技能の大切さを



強く感じました。子どもが身に付けなければならない知識・技能の質や量を考えると、中学校の先生方は大変だなあと感じます。」と話してくれました。

一日異校種体験研修は、小・中学校の先生方が異校種で1日教育活動を行うことで、相互理解を深めるとともに9年間を見通した一貫性ある指導・支援に結び付ける機会として実施しています。そこでは、授業や生徒指導を含めた校種の違いを肌で感じ、小中一貫教育に生かすことを願っています。今回の一日異校種体験研修では、中学校で授業を体験してみたい、そこから何が学べるか知りたい、という関口先生の心意気に感心しました。また、その気持ちを受け止めて、事前研究や授業に協力にくださった松代中学校の先生方にも感謝したいと思います。

教育相談班より

■「不登校・いじめの減少」に向けて

□子どもとともに1・2・3運動の実践をお願いします！

不登校への初期対応として「子どもとともに1・2・3運動」をお願いします。

欠席1日目：欠席家庭に連絡し、保護者または本人から状況を聞く。

2日目：児童生徒の具体的な状況を電話等により把握する。

3日目：家庭訪問を実施し、保護者または本人と面談する。

□認知したいじめの解消に向け、見守り活動を継続していますか？

いじめは単に謝罪をもって安易に解消とすることはできません。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。

① いじめに係る行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること

→ 少なくとも3か月を目安とする。

② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていない状態になっていること

→ 被害児童生徒及び保護者に面談等で確認する。

学校は再発防止に向け、**継続的な見守り**をお願いします。

■「特別支援教育の充実」に向けて

□特別支援学級に在籍する児童生徒の「特別支援学級の授業時数」は守られていますか？

特別支援学級

障がいのある児童生徒が、年間を通じてその学級において活動することを前提として編制され、障がいに応じた指導が行われるもの。

交流及び共同学習

障がいのある児童生徒の交流先の学級での活動を特別支援学級担任がサポートするなど、適切な指導体制を整えられる範囲で実施される必要がある。

これらを総合的に勘案し、**原則として、特別支援学級においては、週の授業時数の半分以上の授業を行うことが目安**とされています。

□「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用していますか？

個別の教育支援計画

障がいのある児童生徒等一人一人の教育的ニーズを踏まえ、長期的な視点で幼児期から学校卒業時までを通じて、一貫した支援を行うことを目的として作成。

個別の指導計画

個々の児童生徒の実態に応じた適切な指導を行うため、多様な学びの場で編成されている教育課程を具体化し、指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、適切かつきめ細かに指導することを目的として作成。

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、以下の場合に作成・活用が求められています。**保護者面談を通じて見直しながら活用**を進めてください。

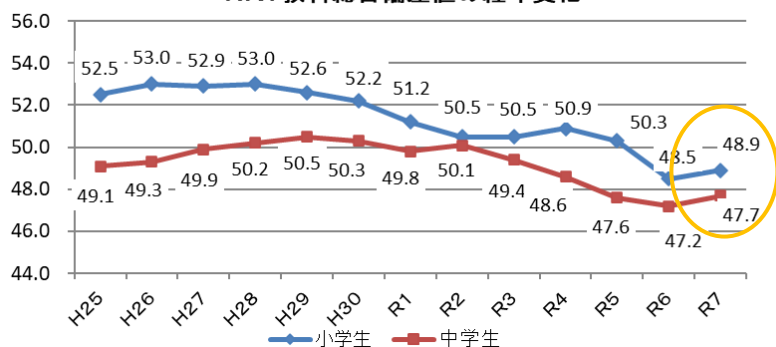
- ◆ 特別支援学校に在学する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 特別支援学級に在籍する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 通常の学級に在籍している障がいのある児童生徒（通級指導は受けていない）・・・作成・活用に**努める**

学習指導班より

NRT標準学力検査の結果から

4月に実施したNRT標準学力検査の市内の結果がまとまりました。

NRT教科総合偏差値の経年変化



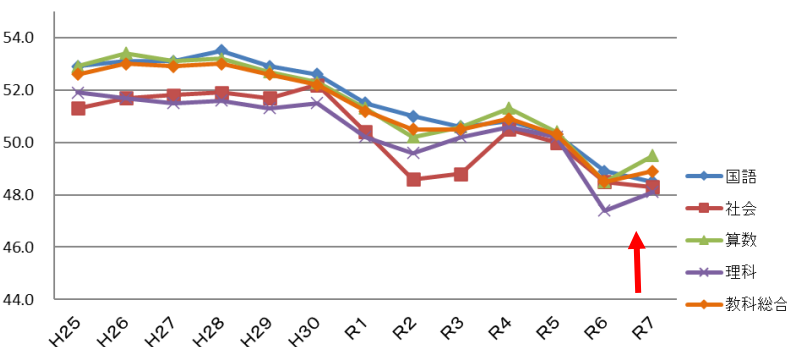
【小学生】

- ①前年より+0.4ポイント。
- ②平成25年度以降、2番目に低い。
- ③3年ぶりに上昇。

【中学生】

- ①前年度より、+0.5ポイント。
- ②平成25年度以降、3番目に低い。
- ③5年ぶりに上昇。

小学生 NRT各教科の標準偏差値の推移



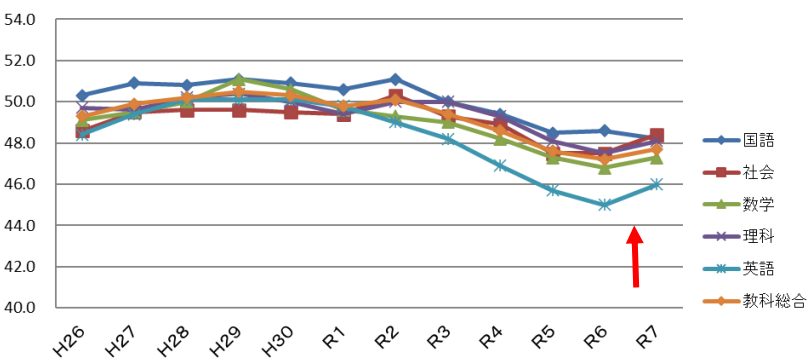
【小学生】

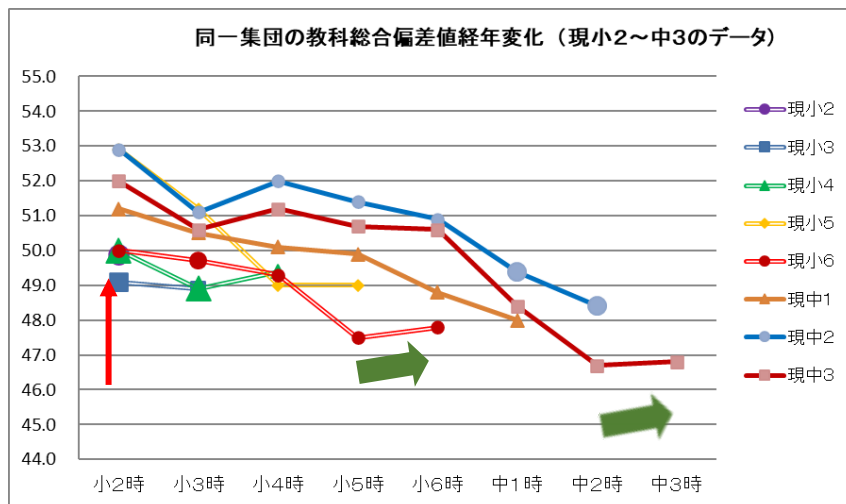
- ①算数+1.0、理科+0.7となり、全体で偏差値が0.4上昇した。
- ②国語の低下が止まらない。
- ③2年連続全教科ともに偏差値50を下回った。

【中学生】

- ①R6と同様に、各教科で偏差値50を下回った。
- ②社会+0.9、数学+0.5、理科+0.6、英語+1.0、全体で偏差値が0.5上昇した。
- ③小学校と同様に、国語の偏差値が0.4低下した。

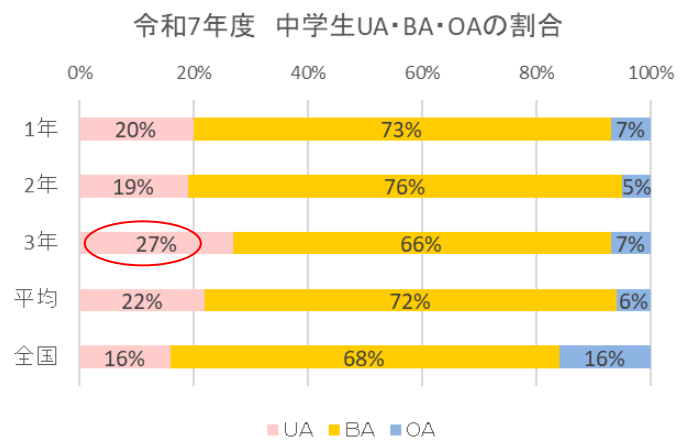
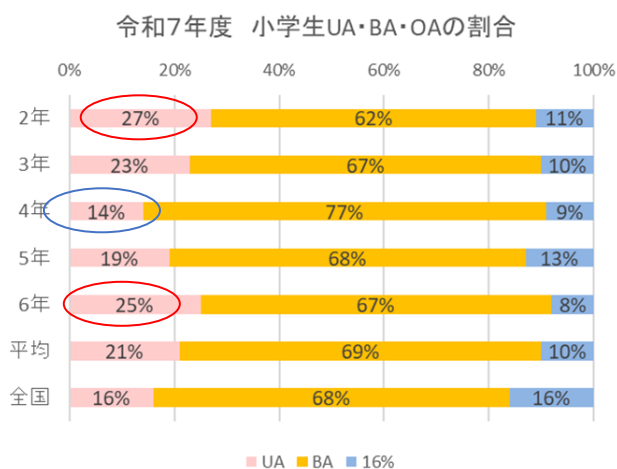
中学生 NRT各教科の標準偏差値の推移





同一集団の結果では、学年が上がるにつれて、総合偏差値が下がる傾向である。

- ① 小2の偏差値が、下げ止まった。
- ② 小学5年生（4年生の学習内容）で低下が止まった。
- ③ 中学1年生での低下が減少した。
- ④ 中学2・3年の下がり幅が減少、または上昇した。



NRTの総合偏差値の推移とともに、UAの割合を16%（全国平均）以下にするという目標も重要視しています。

- ① R6年度よりUAの割合が小学生で21%（前年比1ポイント減）、中学生で22%（前年比2ポイント減）とUAの割合が低くなった。
- ② 小学2年生のUAの値が27%と年々上昇している。入学時からの学習支援が必要となる。
- ③ 中学2年生、3年生のUAの発生率が減少したことが、学力偏差値の向上につながっていると推測できる。

令和4年度より開始した「居心地のよい学級づくり」事業が進み、親和的な学級集団で学習を進められる学校が増えています。それに伴い、NRT学力検査の結果も低下に歯止めがかかり、小学校で3年ぶり、中学校で5年ぶりの上昇という結果をもたらしました。今までのみなさんの取組の成果が結果として表れてきました。引き続き、自校の課題を分析し、授業改善、形成的評価（ドリルパークやNRTアシストシート）等の取組の継続をお願いいたします。

また、次の課題として、児童生徒の学習意欲（やる気）の向上を考えています。意欲が向上することで、学力が向上することは、今までの研究から示されていることです。

児童生徒のやる気を促す授業（面白い、やってみたい）、やる気が出る家庭学習（目的意識がある、成果が実感できる）を目指し、先生方と研修を深めていきたいと思います。
今後とも学力向上に向けての取組をお願いします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
8 月 5 日（月）	特別支援教育研修講座 特別支援教育 Co 養成講座 「自立活動」（川西庁舎）	講師：上越市教育委員会 指導主事 引場 陽子 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
8 月 6 日（水）	小中一貫教育全体研修（段十ろう）	講師：文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 田村 学 様
8 月 22 日（金）	初任者研修ボランティア体験研修 （森の学校キョロロ）	
8 月 22 日（金）	十日町市コミュニティースクール推進協議会（川西庁舎）	
8 月 22 日（金）	イングリッシュキャンプ （千手中央コミュニティセンター） ※小学5・6年生の希望者のみ	
8 月 25 日（火）	特別支援教育研修講座 基礎講座 「十日町市の特別支援教育について」 （千手中央コミュニティセンター）	講師：十日町中学校 教諭 五十嵐潔美 様 十日町小学校 教諭 角屋 香里 織 ふれあいの丘支援学校 教諭 菊池 益男 様 学校教育課 指導主事 小林 信之 対象：すべての教職員 （各校1名以上）
9 月 18 日（木）	居心地のよい学級づくり・学力向上推進会議（川西庁舎）	対象：研究主任または「居心地のよい学級づくり」校内推進員
9 月 29 日（月）	特別支援教育研修講座 「授業公開講座」 （ふれあいの丘支援学校）	内容：ふれあいの丘支援学校の「小学部」と「中学部」の公開授業を通して、特別支援教育への理解を深め、支援方法について研修を行う。 指導者：新潟大学 教授 村中 智彦 様 対象：特別支援学級担任等

【表紙写真の説明】

川西中学校区の千手小学校、上野小学校、橘小学校は、6年生の佐渡島への修学旅行を合同で行っています。6月16日（月）の10：00～11：30に事前学習会を兼ねて「なかよし交流会」を行いました。

3校の6年生は合わせて32人です。8人ずつ4つの班を編成して、班のめあてや行動の約束を話し合ったり、ゲームを楽しんだりしました。感心したのは、行動の約束を「〇〇しない」といった禁止用語を用いずに、「時間を守る」「素早く行動する」などの言葉を用いて発表したことです。3校は、低学年の頃から継続的に交流をしてきています。そうした中で互いのことを理解し、親和的な人間関係を作ってきたことも影響しているのではないかと感じました。

水沢中学校区では、6月20日（金）に水沢中学校の仲嶋嵩人教諭が、水沢小学校で体育の乗り入れ授業をしました。低学年・中学年・高学年ごとに短距離走を速く走ることをテーマとして、子どもが楽しく納得して学ぶことのできる授業をしました。

高学年では、一直線上を歩く時と直線をまたいで歩く時とはどちら負担が少なく歩けるかを体感して、実際に走ってみます。子どもたちは、ねじれずにまっすぐに走ることができる走りのよさを感じます。

次に「なぜクラウチングスタートは速くスピードに乗れるのか」と問いかけます。クラウチング姿勢から10mの距離を普通に歩く時と腕を大きく振って走る時の歩数の違いを数えて、少ない歩数で歩くことができることを理解させます。スタートの10mを少ない歩数で走れる納得感を得た子どもたちは、実際の走りでも速いクラウチングスタートをすることができるようになってきました。